

「小江戸」の街並みになじむ健康の砦

⑩ 三井病院 (埼玉県川越市)



川越は「小江戸」の異名通り、古風な街並みで知られる。病院周辺にも蔵造りと呼ばれる古い家々が立ち並ぶ

「『信頼』という言葉を軸にしています。地域で一番信頼される病院を目指したい」

「目指す医療は？」——秦怜志院長にそう尋ねると、こんな言葉が返ってきた。高品質の医療を優しく丁寧に提供する。この使命を共有できるよう、職員一同に向けて語り掛けてきた。

三井病院が考える「質の高い医療」とは何か。

「大きくは医療の内容と安全性を含めた機能、さらには形のないサービスの部分。これが二本柱です。どちらも高い次元を保っていきたい」

建物はこうした医療を実現するための器。おの

ずと形は決まる。2000年竣工の本館に加え、07年には東館が完成。東館には秦氏がデザインの段階から関わった。出来栄えには納得している。

「緊張しない、落ち着く環境をつくろうと考え、共同設計事務所さんと相談しながら組み立ててきました。床は全てカーペット。穏やかな色調を使い、木の肌合いも生かしています」

設計側とは何度も直接意見交換を繰り返した。秦氏の描いたイメージはプロフェッショナルの手ではほぼ完全に具体的な形に置き換えられている。

デザインに当たっては、職員の声も参考にした。



総合健診センター受付



総合健診センターロビー



内視鏡センター受付



内視鏡センターの廊下とリカバリールーム。天井が高く、くつろげる



X-TV室。胃や腸、胆のう、膵臓(すいぞう)の検査を行う



東館1階の予約センター

東館は階によって機能を変えている。部署ごとの意見を取り入れながら、作業を進めた。

東館が稼働し始めて以来、患者からは好意的な反響が寄せられている。特に化学療法室や乳腺センターは乳がん患者が主体。女性にとって居心地の良い雰囲気づくりには心を砕いた。

「3分間診療とは対極にあるような、リラックスできる場をご用意できたのではないのでしょうか」

東館の完成は病院全体にゆとりをもたらした。外来の診察室は約2倍に拡大。内視鏡やエコーの検査を行う部門は独立し、部屋を構えた。

「患者さんに過度な緊張感を強いることがない。検査をする場としては理想的だと思います」

今のところ、地元・川越を中心とする同心円から訪れる患者が主体。地域密着を掲げている。

「信頼感は少しずつ醸成できています。10年前と比べれば、確実に成長している。それでも、まだまだ課題は多く残ってると思います」

秦氏の理想は明確。「かかって良かった。信頼できる」と感じてもらえるような病院である。

観光客も多い川越の古い街並み。三井病院は風景に溶け込みながら、地域の人々を受け入れる。